

第 16 回 関東産婦人科乳腺医学会

【テーマ】

産婦人科乳腺診療の在り方を探る～継承と刷新～

【会長】長阪 一憲

帝京大学医学部附属病院産婦人科 主任教授
臨床遺伝診療センター センター長

【会期】2025 年 8 月 24 日（日）

【会場】帝京大学板橋キャンパス本部棟 2 階 臨床大講堂

目 次

ご挨拶	3
交通ご案内	4
会場見取図	6
参加者の皆様へ	7
座長・演者の皆様へ	8
日程表	9
講演抄録・略歴	11
教育講演 1	12
教育講演 2	14
シンポジウム	18
ランチオンセミナー	24
スポンサードセミナー	28
関連学会・研究会予定	34
協賛企業・団体一覧	36

ご 挨 拶

第 16 回関東産婦人科乳腺医学会開催にあたり



このたび、第 16 回関東産婦人科乳腺医学会学術集会を 2025 年 8 月 24 日（日）に帝京大学板橋キャンパス本部棟 2 階 臨床大講堂にて開催させていただく運びとなりました。関係者の皆様に深く感謝申し上げますとともに、このような機会をいただけますことを大変光栄に存じます。

今回の学術集会では、「産婦人科乳腺診療の在り方を探る ～継承と刷新～」をテーマに掲げ、乳がんをはじめとする乳腺疾患の診断・治療に関する最新の知見を共有するとともに、がんサバイバーの方への生殖医療支援や遺伝性乳がん卵巣がん症候群（HBOC）診療における遺伝カウンセリングなど、臨床現場で直面する多様な課題についても深く掘り下げてまいります。特に、若年乳がん患者の妊孕性温存療法の現状と課題、生殖医療との連携強化、HBOC に関わる遺伝学的検査や、多職種連携による意思決定支援を重要なテーマとして取り上げます。さらに、わが国の女性がん検診制度の課題として、子宮頸がん検診受診率の低迷、精密検査受診率の地域間・職域間の格差、HPV 検査単独法導入に伴う精度管理の重要性などを議論し、乳がん検診においてもマンモグラフィや超音波検診の現状を整理し、その課題解決への方策を探っていきます。また「乳房ケアネスのための連携診療」をテーマとした特別セッションも企画し、産前産後ケア、授乳期の薬物療法、ライフステージを通じた乳房ケアの重要性など、多職種連携を深めるための最新情報を提供いたします。

開催形式につきましては、現地開催に加えてオンデマンド配信も導入し、関東地区のみならず全国各地の医師、助産師、看護師、薬剤師をはじめとする多職種の皆様にも広くご参加いただけるよう準備しております。

皆様の多数のご参加を心よりお待ちしております。

第 16 回 関東産婦人科乳腺医学会

会長 長阪 一憲

（帝京大学医学部附属病院産婦人科 主任教授、
臨床遺伝診療センター センター長）

交通ご案内

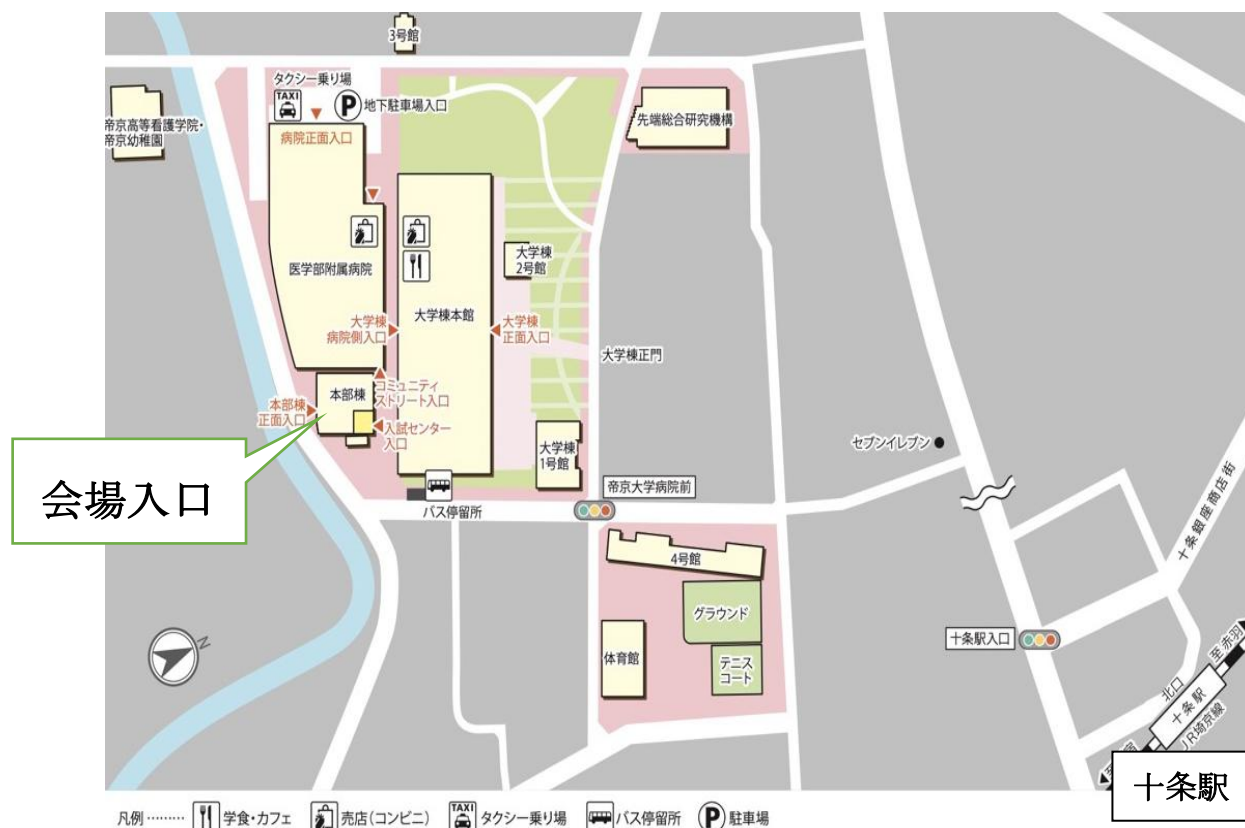
会場：帝京大学板橋キャンパス 本部棟 2 階 臨床大講堂

〒173-8605 東京都板橋区加賀2-11-1 TEL：03-3964-8480

- JR 埼京線 十条駅下車 徒歩約 10 分
- 都営三田線 板橋本町駅下車（A1 出口）徒歩約 13 分
- JR 京浜東北線 王子駅下車
 - ・ 国際興業バス 6 番乗り場 板橋駅行 約 10 分「帝京大学病院」下車
 - ・ 国際興業バス 7 番乗り場 赤羽駅西口行 約 10 分「帝京大学病院正面」下車

<最寄り駅からのご案内①：JR 埼京線 十条駅>

■ アクセスマップ



1. 「北口」の改札を出て左へ進みます。
2. 大通りに出たら右に曲がります。
3. 数分歩くと「帝京大学入口」と書かれた信号機と、左手にセブンイレブンが見えます。
4. セブンイレブンの手前の細い路地を左に入ります。
5. 坂道を下ると、T字路の右手に帝京大学医学部附属病院の建物が見えます。

JR 十条駅から帝京大学医学部附属病院までのルートは以下から動画でもご確認頂けます。
<https://www.youtube.com/watch?v=5vJ59G12hTY>

<最寄り駅からのご案内②：都営三田線 板橋本町駅>
■アクセスマップ



上の地図は略図のため、実際の地形とは異なりますのでご注意ください。

1. 巣鴨方面行きホームの改札口を出て「A1 番出口」に出ます。
2. 右手に『17 号線』を見て、巣鴨方面（左）に進みます。
3. 400 メートル位進み。一つ目の信号を左折します。
4. 十字路（正面に歯科医院があります）に出たら右手に曲がります。
5. 巣鴨方面に 200 メートル位進み「いたばし」という橋の手前を左に曲がります。
6. 川沿いを数分歩くと、左手前方に帝京大学医学部附属病院の建物が見えてきます。

板橋本町駅から帝京大学医学部附属病院までのルートは以下から動画でもご確認頂けます。
https://youtu.be/i5-xB_yU0Y

帝京大学医学部附属病院へのアクセスご案内は以下からもご確認頂けます。

<https://www.teikyo-hospital.jp/access/train.html>

会場見取図

帝京大学板橋キャンパス 本部棟 2 階

講演会場：本部棟 2 階 臨床大講堂

PC 受付：本部棟 2 階 講堂横 廊下

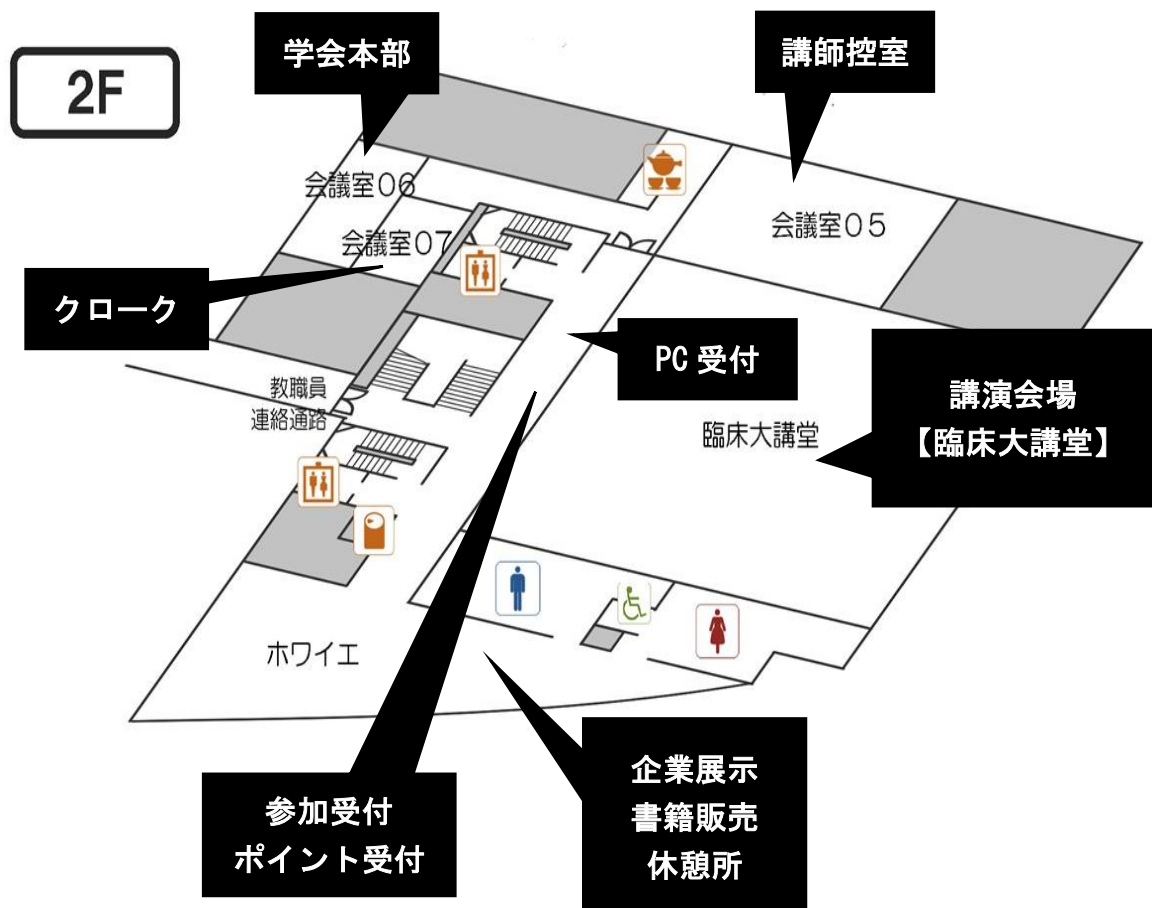
参加受付・ポイント受付：本部棟 2 階 講堂横 廊下

企業展示・書籍販売・休憩所：本部棟 2 階 ホワイエ

講師控室：本部棟 2 階 会議室 05

学会本部：本部棟 2 階 会議室 06

クローク：本部棟 2 階 会議室 07



参加者の皆様へ

I. 参加費

医師：8,000 円 その他の方：4,000 円

研修医・学生：無料 *身分証をご提示ください。

- ・ 参加受付は、当日午前 8 時 30 分より、講演会場前にて行います。
- ・ 事前登録をオンラインでされた方は、予めネームカードまたはメール送信された確認書をプリントし受付でご提示ください。
- ・ 現地参加の方には当日会場でネームカードをお渡し致します。
- ・ 事前登録をオンラインでされた方は、登録画面より領収書の発行も可能です。
- ・ 上記の参加費で、現地参加・オンデマンド配信視聴のいずれも可能です。

II. プログラム抄録集

ご登録された方に、PDF にて Email 添付送信させていただきます。また、当日ご来場の際に、受付で冊子をお渡し致します。

もし追加で冊子が必要の場合には、別途ご購入ください（1 部 1,000 円）。

III. 各種研修証明について

医師の方へ：当学会プログラムにご参加の方には、以下を発行致します。

日本専門医機構	学術集会参加単位
	産婦人科領域講習
日本医師会	生涯教育制度参加証
日本産婦人科医会	研修参加証

助産師の方へ：当学会プログラムは、以下に該当する講義を含みます。

日本助産評価機構更新要件 選択研修
日本産婦人科乳腺医学会 乳房エキスパート看護職制度単位

IV. オンデマンド配信について

第 16 回関東産婦人科乳腺医学会ホームページ

<http://www.academiasupport.org/16kanto-jbsgo/>

から学会プログラムをオンデマンド配信致します。

オンデマンド配信の期間は、2025 年 9 月 1 日（月）～30 日（火）を予定しております。

なお、日本専門医機構の単位取得は、8 月 24 日（日）現地参加、またはオンデマンド配信にて 9 月 1 日（月）～9 月 7 日（日）の視聴が対象となります。

また、日本医師会生涯教育制度参加証は 8 月 24 日（日）現地参加のみが対象となります。

【お問合せ先】

第 16 回関東産婦人科乳腺医学会運営事務局

〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-24-7-920 一般社団法人アカデミアサポート内

Tel：03-5312-7686 Fax：03-5312-7687 Email:16kanto-jbsgo@academiasupport.org

座長・演者の皆様へ

座長の皆様へ

- ・ 担当セッションの開始 10 分前に、会場内前方の「次座長席」にご着席ください。
- ・ 担当セッションの進行は、時間内に終了するよう円滑な運営にご協力をお願い致します。

演者の皆様へ

I. 発表方法について

- ・ 会場へは、USB メモリ、ノート PC 本体、のいずれかの形で発表データをお持ち込みください。
- ・ 講演開始 30 分前までに、PC 受付にて発表データの試写と受付を済ませてください。
- ・ 学会場では試写のみとし、データ修正等は事前に済ませてから学会場にお越しください。
- ・ ご発表 10 分前には、会場内前方左手の「次演者席」に着席し、待機してください。

II. 発表データについて

- ・ スライド作成は 4:3 をお勧めします。16:9 で作成されても問題ございませんが、画面の上下に黒帯が表示されます。
- ・ 発表演題に関する利益相反 (Conflict of Interest: COI) 開示について、日本産婦人科乳癌医学会ホームページ内<http://jbsgo.jp/members/coi.html>の指針をご参照ください。
- ・ USB メモリをお持ち込みの方へ
 - ✧ ソフトは、Windows 版 PowerPoint2016 以降のバージョンをご使用ください。
 - ✧ Macintosh や動画ファイルをご使用の方は、PC をお持ち込みください。
 - ✧ フォントは OS 標準のもののみご使用ください。
 - ✧ 画面の解像度は、FHD (1920x1080) もしくは XGA (1024×768) をお願い致します。
 - ✧ 発表中に動画がございます場合は、PowerPoint に挿入頂き、且つ念のため動画のみ別ファイルにてもご提出をお願い申し上げます。
- ・ ノート PC をお持ち込みの方へ
 - ✧ バックアップとして、必ずメディアもご持参ください。
 - ✧ 画面の解像度は、FHD (1920x1080) もしくは XGA (1024×768) をお願い致します。
 - ✧ PC 受付の液晶モニターに接続し、映像の出力チェックを行ってください。
 - ✧ PC の機種や OS によって、出力設定方法が異なります。
 - ✧ プロジェクターとの接続ケーブル端子は HDMI です。ノートパソコンをご持参される方で変換コネクタを必要とする場合は、必ずご自身でお持ちになってください。
 - ✧ Macintosh をご使用になる場合には、必ず PC 本体をご持参ください。
 - ✧ スクリーンセーバー、省電力設定は事前に解除願います。

日程表

第 16 回関東産婦人科乳腺医学会

【会期】2025 年 8 月 24 日（日）

【会場】帝京大学板橋キャンパス本部棟 2 階 臨床大講堂

時間	内容
09:00-09:10	開会式 開会挨拶 長阪 一憲(第 16 回関東産婦人科乳腺医学会 会長)
09:10-11:00	シンポジウム「乳房アウェアネスのための連携診療 産前産後や HBOC や授乳と薬」乳房エキスパート看護職セッション ★1 単位、☆1.5 単位、○、● 座長：坂田 清美(帝京平成大学ヒューマンケア学部看護学科母性看護学・助産学 教授) 1 「ライフステージから考える乳房アウェアネス」 演者：土橋 一慶(千川産婦人科医院) 2 「年間 3,000 件の産後ケアを実施している施設でのケアの現状」 演者：木村 恵子(しらさぎふれあい助産院 院長) 3 「授乳と薬 ～医薬品情報の評価～」 演者：仲村 聡美(帝京大学医学部附属病院薬剤部 薬剤師)
11:00-11:10	休憩
11:10-12:10	教育講演 1 「乳がん患者に対する妊孕性温存療法の現状と課題」 ★1 単位、☆1 単位 座長：寺本 勝寛(山梨県立中央病院 名誉院長) 演者：高井 泰(埼玉医科大学総合医療センター 主任教授)
12:10-12:20	休憩
12:20-13:20	ランチョンセミナー「女性がん患者に対する免疫チェックポイント阻害剤」 ★1 単位、☆1 単位 【共催：MSD 株式会社】 座長：神野 浩光(帝京大学乳腺外科 教授) 1 「乳癌における免疫チェックポイント阻害剤の役割」 演者：松本 暁子(帝京大学医学部外科 講師) 2 「婦人科がんにおける免疫チェックポイント阻害剤の役割」 演者：西田 晴香(帝京大学医学部附属病院産婦人科 講師)
13:20-13:30	休憩
13:30-13:50	総会
13:50-15:00	教育講演 2 「本邦における女性に対するがん検診の課題」 ★1 単位、☆1 単位 座長：長阪 一憲(帝京大学医学部附属病院産婦人科 主任教授) 1 「HPV 検査単独法による子宮頸がん検診の精度管理の考え方」 演者：青木 大輔(国際医療福祉大学大学院 教授、赤坂山王メディカルセンター 院長) 2 「日本人女性に対する乳がん検診の現状 ～課題と展望～」 演者：植松 孝悦(静岡県立静岡がんセンター乳腺画像診断科 部長)
15:00-15:10	休憩
15:10-16:40	スポンサードセミナー「HBOC に対するリスク低減手術と再建術」 ★1 単位、☆1.5 単位 【共催：ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社】 座長：木戸 浩一郎(帝京大学医学部附属病院産婦人科 病院教授) 1 「リスク低減卵管卵巣摘出術：手術手技の工夫と術後の包括的ケア」 演者：長阪 一憲(帝京大学医学部附属病院産婦人科 主任教授) 2 「遺伝性乳癌卵巣癌症候群（HBOC）患者に対する乳房再建について」 演者：堂後 京子(帝京大学医学部形成・口腔顎顔面外科学講座 准教授) 3 「HBOC 診療における医師と遺伝カウンセラーの協働：リスク低減手術の意思決定支援を中心に」 演者：佐々木 元子(お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科 ライフサイエンス専攻 遺伝カウンセリングコース/領域 講師)
16:40-16:50	次期会長挨拶 竹田 奈保子(たけだ乳腺・婦人科クリニック 院長)
16:50-17:00	閉会挨拶 長阪 一憲(第 16 回関東産婦人科乳腺医学会 会長)

- ★ 専門医機構産婦人科領域講習
- ☆ 日本医師会生涯教育
- 乳房エキスパート看護職セッション
- 日本助産評価機構更新要件 選択研修

※上記プログラムに参加された方に、日本産婦人科医会の研修会出席証明を登録致します。

講演抄録・略歴

【教育講演 1】

乳がん患者に対する妊孕性温存療法の現状と課題

埼玉医科大学総合医療センター産婦人科

高井 泰

妊孕性 (fertility, fecundity) は生殖機能とほぼ同義とされ、男女における妊娠に必要な臓器、配偶子、機能をいう。妊孕性温存には2種類あり、縮小手術や神経温存によって臓器、配偶子、機能への障害を軽減するものが従来の妊孕性温存 (fertility sparing) であり、臓器、配偶子、受精卵の凍結保存は、近年の生殖医療技術の進歩によってもたらされた新しい妊孕性温存 (fertility preservation) である。

一方、がん・生殖医療 (oncofertility) とは、妊孕性温存そのものを意味するだけでなく、「がん患者の診断、治療および生存状態に鑑み、個々の患者の生殖能力に関わる選択肢、意思および目標に関する問題を検討する生物医学、社会科学を橋渡しする学際的な一つの医療分野」であり、がんサポーターズケアの領域の一つとされている。

2018年に日本がん・生殖医療学会 (JSFP) が設立した日本がん・生殖医療登録システム (Japan Oncofertility Registry, JOFR) では、妊孕性温存カウンセリングを受けた患者全てを対象として、卵子・精子・受精卵・卵巢組織の凍結などの妊孕性温存治療の内容の他、カウンセリングのみを施行した患者も登録し、予後や生殖機能などを記録・追跡することとしている。JOFRによるデータベースを解析することによって、わが国のがん・生殖医療の実施数や地域差、生児獲得率など生殖医療としての治療成績、生存率などががん診療としての治療成績が明らかになるとともに、わが国のがん・生殖医療の量的・質的均てん化を推し進めるために不可欠な基盤的データが期待できる。

2021年4月から小児・AYA世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業が開始された。2022年4月から不妊症に対する生殖補助医療 (Assisted Reproductive Technology, ART) は保険適用となったが、妊孕性温存目的に凍結された精子・卵子等を用いた ART は保険適用外とされたため、温存後の ART も本研究促進事業の対象とされた。この事業は国と都道府県から全国一律の公的助成を行うものだが、有効性が確立した治療法に対して助成を行うのではなく、妊孕性温存療法のエビデンス等を確立するための研究促進事業という位置づけであることが重要である。そのため、妊孕性温存療法を実施する医療機関は、各都道府県のがん・生殖医療ネットワークに参加して施設認定を受けるとともに、長期にわたって患者をフォローアップし、JOFRに予後や妊娠・出産に関する情報を登録し続ける必要がある。この公的助成制度のもとで妊孕性温存療法を実施している施設は180余りあり、日産婦学会や日本泌尿器科学会のホームページで調べることができる。

本講演では、公的助成制度を通してわが国のがん・生殖医療が目指すものを概説したい。

略歴



埼玉医科大学総合医療センター 主任教授

高井 泰 (たかい やすし)

【学歴・職歴】

1991 年 3 月 東京大学医学部医学科卒業
1991 年 6 月 東京大学医学部附属病院産婦人科 研修医
1997 年 4 月 日本学術振興会特別研究員
1998 年 3 月 東京大学大学院医学系研究科 博士課程 卒業
1999 年 12 月 東京大学医学部附属病院 産婦人科 助手
2001 年 3 月 日本学術振興会海外特別研究員
米国マサチューセッツ総合病院 Research Fellow
2003 年 4 月 東京大学医学部附属病院 女性外科 助手
2004 年 4 月 埼玉医科大学総合医療センター 産婦人科 講師
2007 年 1 月 同 准教授
2015 年 1 月 同 教授
2021 年 4 月 同 運営責任者（主任教授）

【専門分野】

生殖医学、内分泌学、内視鏡下手術、臨床遺伝学/出生前診断

【専門】

日本産科婦人科学会専門医
日本生殖医学会生殖医療専門医
日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医
日本人類遺伝学会臨床遺伝専門医

【役職】

日本産科婦人科学会代議員
日本卵子学会理事
日本受精着床学会評議員
日本産科婦人科遺伝診療学会代議員
日本産科婦人科内視鏡学会評議員
日本がん・生殖医療学会理事長
日本産科婦人科学会 The Journal of Obstetrics and Gynaecology Research
Associate Editor
日本産科婦人科学会用語集編集委員
日本産婦人科医会研修ノート編集委員

【教育講演 2】本邦における女性に対するがん検診の課題

HPV 検査単独法による子宮頸がん検診の精度管理の考え方

国際医療福祉大学大学院、赤坂山王メディカルセンター

青木 大輔

わが国の各市町村を実施主体とする子宮頸がん検診は対策型検診のひとつに位置づけられている。検診は健常者に対する医療介入となることから、実施による利益が不利益を上回ることが確認されているとともに、利益を最大化し不利益を最小化するために適切な精度管理が求められる。精度管理をおろそかにすると不利益が増大し、利益が低下するからである。

細胞診による子宮頸がん検診は、1950 年代に大学を中心に開始され、1983 年には老人保健事業として子宮がん検診と胃がん検診が開始されている。1998 年にはがん検診経費が一般財源化され、1998 年から 2008 年のがん検診事業は法律に基づかないものになってしまった。この間、国は事業の重要性や適切な実施方法に関する情報提供を行うため「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」（指針）を策定している。2008 年には、がん検診事業は健康増進法に基づくものとなり、市町村事業に位置づけられ、指針も状況に応じて随時改正されている。

2024 年 2 月に指針が改正され、HPV 検査単独法による子宮頸がん検診が追記された。市町村は、20 歳代には 2 年に 1 度の細胞診、30 歳から 60 歳には、5 年に 1 度の HPV 検査あるいは 2 年に 1 度の細胞診のいずれかを行うとされた。HPV 検査単独法は従来の細胞診と比較して浸潤がん罹患率減少効果はほぼ同等であり、一方で偽陽性すなわち不利益が増加することから、検診間隔を 5 年に延長できることがほぼ唯一のメリットとなる。必要以上に頻回の検診は累積の偽陽性が増加するので、検診間隔を延長できなければ導入するメリットはない。HPV 検査単独法の実施には、検診提供者の理解と協力、住民への普及啓発とともに、受診者の情報と検診結果を保存するデータベース等を有し、検診受診状況を長期に追跡することが可能であること、などが実施要件とされ、これらの要件を満たし、さらに精度管理体制が整った自治体から順次開始できるとした。

HPV 検査による子宮頸がん検診のアルゴリズムの運用、精度管理はより複雑になることから、また、プロセス指標の目標値がにわかに設定できないことから課題も多い。HPV 検査単独法を導入した市町村では受診者の検診/精検（追跡精検・確定精検）の受診状況や結果について把握・評価し、導入からしばらくはパイロット事業として位置づけることによって、求められるレベルの運用ができているかの確認が必要である。

略歴



国際医療福祉大学大学院 教授
赤坂山王メディカルセンター 院長

青木 大輔 (あおき だいすけ)

【学歴・職歴】

1982 年 3 月 慶應義塾大学医学部卒業
1982 年 5 月 慶應義塾大学医学部研修医（産婦人科）
1985 年 6 月 慶應義塾大学医学部助手（専修医）（産婦人科学）
1988 年 9 月 米国 La Jolla Cancer Research Foundation
(現 Sanford Burnham Prebys Medical Discovery Institute)
Post-Doctoral Fellow
1990 年 9 月 国立東京第二病院（現 国立病院機構東京医療センター）医員
1991 年 12 月 慶應義塾大学助手（医学部産婦人科）
1996 年 4 月 慶應義塾大学専任講師（医学部産婦人科学）
2005 年 4 月 慶應義塾大学教授（医学部産婦人科学）
2023 年 4 月 慶應義塾大学名誉教授
2023 年 4 月 国際医療福祉大学大学院 教授／赤坂山王メディカルセンター 院長

【所属学会等】

日本婦人科がん検診学会（理事長）、日本産科婦人科学会（監事）、
日本婦人科腫瘍学会（監事）、婦人科悪性腫瘍研究機構（監事）、
日本産婦人科手術学会（監事）、日本産科婦人科遺伝診療学会（副理事長）、
日本遺伝性腫瘍学会（監事）、日本臨床細胞学会（監事）、
日本がん検診・診断学会（理事）、日本婦人科がん会議（代表世話人）、
東京都生活習慣病検診管理指導協議会がん部会（委員）、
杉並区がん検診精度管理審議会（委員）、神澤医学研究振興財団（評議員）等

【専門資格等】

日本産科婦人科学会産婦人科専門医、日本臨床細胞学会細胞診専門医、
日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、
日本遺伝性腫瘍学会遺伝性腫瘍専門医、日本女性医学学会女性ヘルスケア専門医

【その他】

2013 年度より AMED 委託事業ならびに厚生労働科学研究費補助金による子宮頸がん検診の有用性や運用に関する研究に研究代表者として従事している

【教育講演 2】本邦における女性に対するがん検診の課題

日本人女性に対する乳がん検診の現状 ～課題と展望～

静岡県立静岡がんセンター乳腺画像診断科

植松 孝悦

日本では過去 25 年間にわたりマンモグラフィ検診が導入されてきましたが、乳癌死亡率減少効果は明確に確認されていません。その背景には、日本人女性に高濃度乳房の割合が高いことが大きく影響しています。欧米の検診マンモグラフィのエビデンスをそのまま日本人女性に適用したことで、日本の乳がん検診の感度が低下し、偽陰性や過少診断のリスクが上昇する結果となりました。

この課題を克服するため、日本人女性を対象とした唯一のランダム化比較試験である J-START では、マンモグラフィに超音波検査を併用することで乳がん検診の感度が向上することが示されています。この結果は、日本人女性に対する乳がん検診の新たな方向性を示唆するものであり、高濃度乳房の女性にも対応可能な検診方法を確立するためのエビデンスの一つです。

次世代の乳がん検診には、全ての日本人女性が公正に乳癌死を回避できる方策の導入が必要です。乳がん検診の死亡率減少効果に必要な感度と受診率の正確な数値を随時把握できる組織型検診を取り入れて、その科学的根拠に基づいて、検診の精度向上と受診率の向上を同時に達成する検診プログラムの導入が急務です。これにより、より多くの日本人女性に適切な乳がん検診を提供し、乳癌死亡率の低減を目指すことが可能となるでしょう。

この講演が、今後の日本の乳がん検診の在り方を皆様が再考する機会となり、より効果的な検診プログラムの構築の機運へとつながることに期待します。

略歴



静岡県立静岡がんセンター乳腺画像診断科 部長

植松 孝悦（うえまつ たかよし）

【学歴】

1992 年 新潟大学医学部卒業

2001 年 新潟大学医学博士号習得 In vitro high-resolution helical CT of small axillary lymph nodes in patients with breast cancer: correlation of CT and histology. AJR Am J Roentgenol. 2001 Apr;176(4):1069-74.

【職歴】

1992 年から 2001 年まで 新潟大学附属病院、新潟県立がんセンターなどで勤務

2002 年 静岡がんセンターに赴任

2013 年 同 生理検査科部長

2017 年 同 乳腺画像診断科部長（生理検査科部長を兼任）

【所属学会】

日本乳癌検診学会 理事

日本乳癌画像研究会（JSOBCI） 代表世話人

日本乳癌学会 予防・検診委員会 副委員長

日本人間ドック・予防医療学会 女性のための健診・予防医療のあり方検討委員会 副委員長

日本医学放射線学会 編集委員会 委員

日日本乳腺甲状腺超音波医学会 教育委員会 委員

日本乳癌学会 前理事

日本乳がん検診精度管理中央機構 前理事

【専門資格等】

日本医学放射線学会診断専門医

日本乳癌学会乳腺専門医

専門分野は乳がん検診、乳房画像診断全般と乳房画像誘導下生検

ライフステージから考える乳房アウェアネス

千川産婦人科医院

土橋 一慶

卵巣機能の標的臓器である乳腺を含めた乳房は、他の臓器と比較して極めてユニークな変化をなす臓器である。その代表例が、妊娠から分娩にかけての乳汁の産生から出生児の分化/発達に必要な乳汁分泌に至る過程である。乳汁分泌を維持/発達させるために、妊娠現象が成立する思春期前からすでに乳汁産生に必要な基本的な準備状態の形成を行っている。妊娠が成立すると乳腺の分化/発達現象は最大となり、分娩前には非妊娠時と比較して大きさ自体も3倍になるとされている。その結果、分娩後、乳汁分泌は著しく発達する。この現象は、妊娠維持機構に関与した他の臓器がいずれも非妊娠時の状態に復古するのに反して、極めてユニークである。さらに出生児の乳頭に対する捕捉/吸吮運動によって分泌機能が維持されるのも興味深いと考える。分娩後は、卵巣機能の低下とともに乳腺組織は退化し、閉経後は萎縮現象が急速に生じると考えられている。

この女性のライフステージにおける生理的乳腺現象から逸脱した状態が、医療の場の診療として乳房痛、乳腺腫瘍、乳房違和感、左右の乳房発達の差異、乳頭分泌異常、乳汁露出、皮膚の発赤などで表現されている。この逸脱現象は、遺伝的要素、感染の有無、外傷、成長/発達による乳房自体の大きさ、糖尿病など合併症などによって増幅/潜在化されてくると思われる。したがって、診療の場では、基本的鑑別診断（視触診、超音波検査・マンモグラフィなど画像診断）の変化と合わせて、月経の状態を含めた乳腺/乳房自体の発達様式、併せて他の合併症を示唆する検査（卵巣機能、卵巣の確認、血液検査）などとともに家族歴などの問診から得られるが重要になってくる。

講演の前半で前述した点について具体的な症例をもとに解説する。後半で、現在実際に取り組んでいる妊婦乳房検診の結果から得られた問題点を、画像診断で重要な超音波検診の有用性について報告する。併せて、スマホを利用した女性の健康管理への動機付けで有用と考えているプレコンセプションケアの臨床的有用性について紹介する。

略歴

千川産婦人科医院

土橋 一慶（どばし かずよし）

【学歴・職歴】

昭和 48 年：日本大学医学部卒

同：日本大学板橋病院産婦人科助手

昭和 55 年：帝京大学医学部産婦人科講師

平成元年：同 医学部産婦人科助教授

平成 12 年 6 月：千川産婦人科医院開設し現在に至る

留学歴

昭和 58 年-59 年：カリフォルニア大学アーバイン校産婦人科教室

昭和 62 年-63 年：デュッセルドルフ大学附属クレフェルド病院産婦人科

【専門資格等】

学会認定医・専門医：日本産科婦人科学会専門医 日本乳癌学会専門医

【国内外における活動歴】

世界産婦人科連合（1992-1998）：Committee for the study of female breast 委員

日本産科婦人科学会（1987-1992）：子宮内膜症の診断および進行度分類設定委員会（幹事）

（1997-2001）：HRT の現状と副作用発現検討委員会（委員）

（2001-2003）：乳癌検診に関する問題検討委員会（委員：幹事）

（2013-2017）：ヘルスケア委員会 委員

（2019-2021）：乳がん・子宮がん検診の普及に関する小委員長

日本乳癌学会（1994-2005）：乳癌学会認定医・専門医委員会 委員

日本乳癌検診学会（1994-2004）：マンモグラフィ併用乳癌検診システム精度管理中央委員会 委員、乳房超音波検診精度管理委員会（委員）（2007-2008）

日本産婦人科医学会 がん対策委員会 乳がん検診小委員長（1997-2003）協力委員（2003-2006）

NPO マンモグラフィ併用乳癌検診システム精度管理中央機構 理事（2004-2017）

厚生省 佐伯班（HRT と乳癌）：班長協力者（2004-2007）

東京都医師会乳がん対策委員会 委員長（2005 年 6 月—2007 年 3 月）

第 8 回日本産婦人科乳癌学会（2006 年 3 月 5 日 東京）会長

第 14 回日本良性乳腺疾患研究会会長（2008 年 3 月 8 日：東京）

産婦人科乳癌画像研究会 主催 代表世話人

日本乳癌検診学会理事～2010 年 12 月

第 5 回 日本産婦人科乳癌学会・関東支部会 会長（2013 年 8 月）

日本産婦人科乳腺医学会（旧：日本産婦人科乳癌学会）（常務理事）～2017 年）

現在学会役員

監事：日本産婦人科乳腺医学会、関東産婦人科乳腺医学会（～2022 年）

【シンポジウム】乳房アウェアネスのための連携診療 産前産後やHBOCや授乳と薬

年間 3,000 件の産後ケアを実施している施設でのケアの現状

しらさぎふれあい助産院

木村 恵子

産後ケアの利用者は、癒しを求めて来院する。そのため、スタッフの一人でも痛い母乳ケアを行うと、二度と来院しなくなると考えている。

「痛くないケア」「短時間で効果が出るケア」を提供するため、BS ケア®を採用し、入職するに当たり、研修を受講してからきていただくことにしている。入職後もケアのレベルを保ち、向上させるため、講師を招いての院内研修や、スタッフが集まった母乳相談勉強会などを毎月定期開催している。また、新人スタッフには、先輩助産師が母乳相談をしている様子を、母親のフットマッサージや子守をしながら聞く、「影武者研修」と呼んでいる研修も行っている。

当院の産後ケアのテーマは「ママをオキシトシンで満たす」である。

育児は 24 時間 365 日休みなく行う大変な事業である。それを行うには、母親がオキシトシンで満たされていることが最も重要だと考えている。

お産の時にオキシトシンが大放出されることで、大変だけど、かわいいから頑張れるのである。

ご存じのように、もっともオキシトシンが大量に分泌されるのは、分娩の時である。

『合成オキシトシン』を多用した分娩では、この大量分泌が起きていないため、子育てが辛く、苦しいだけのものになってしまい、とにかく「赤ちゃんと離れて預けて休みたい」となりがちである。

なので、帝王切開の適用でない限り、『合成オキシトシン』の投与は慎重に行うべきであり、ましてや計画無痛分娩は、絶対的にやめた方が良く、産後ケア 3,000 件の現場から考えている。

しかし、現状として、すでに分娩を終えた母親達が産後ケアを求めて来院するので、明日からの育児がラクに楽しくなるように、ママをオキシトシンで満たそうと奮闘している。お産の次にオキシトシンが分泌されるのは、母乳育児である。

病院で、早々にミルクを大量に足された、混合栄養状態で来院される方がとても多い。

混合はもっとも難しく、大変で、面倒な状態である。スタッフが母乳のメリットを心から信じていないと、母乳を勧めるのに躊躇してしまいがちである。

なので、母乳相談勉強会では、毎回必ず、母乳のメリットを確認するところから始めることにしている。赤ちゃんを預けて寝たいと思ってきた母親でも、当院の産後ケアを体験して、「私が求めていたのはこれでした！」とキラキラした目で話してくれる。ママがで満たされたなと思う瞬間である。

略歴



しらさぎふれあい助産院 院長

木村 恵子 (きむら けいこ)

【学歴】

1985 年 産業能率短期大学能率科卒業
2010 年 45 歳 聖母大学（現：上智大学）看護学部卒業

【職歴】

1985 年 外資系保険会社の OL に
2004 年 然育児相談所に勤務（2 年在籍）
2016 年 産科病院、総合病院、助産院勤務を経て、しらさぎふれあい助産院開業。
4 か月後に、最も応援してくれていた夫が、膵臓がんで亡くなる
2018 年 産後のデイケア開始
2020 年 分娩取り扱い開始
2022 年 クラウドファンディングで 1,300 万円の資金を集め、現在の場所に移転拡大。
2024 年 産後ケアは月に 260 件、年間 3,200 件実施。分娩も実施している。
2024 年 9 月 「ふれあい地球フェス in なかの🌍」を開催。3,000 人の方が来場
テーマは「助産師・助産院を広める」「幸せなお産、母乳育児を広める」

【所属学会】

舌癒着症学会

【専門資格等】

看護師
保健師
助産師
イトオテルミー療術師

【シンポジウム】乳房アウェアネスのための連携診療 産前産後やHBOCや授乳と薬

授乳と薬 ～医薬品情報の評価～

帝京大学医学部附属病院薬剤部

仲村 聡美

2019年4月より添付文書の新記載要領が適用され、従前の「妊婦、産婦、授乳婦等への投与」は新設された「特定の背景を有する患者に関する注意」の項の下、「妊婦」、「授乳婦」の項に記載されることとなった。妊婦・授乳婦への投与はいずれも臨床使用経験などを考慮し記載することとなったが、現時点では添付文書のみでは薬剤情報の評価に困難な場合があり限界がある。こうした背景を受け、国立成育医療研究センター「妊娠と薬情報センター」では、授乳中の薬剤使用に関して、国内外の研究から得られた科学的根拠に基づいた情報をホームページ上で公開しており、「授乳中に安全に使用できる薬」や「授乳中の使用には適さない薬」のリストを提供している。同センターは、2012年より授乳相談にも対応しており、臨床に即した情報提供を行っている。

薬剤の母乳移行性を評価する指標としては、母乳中薬物濃度と母体血中濃度の比(M/P比)や、相対的乳児投与量(RID: Relative Infant Dose)が用いられる。特にRIDは、乳児が母乳を通じて摂取する薬剤量を母体の投与量と比較するものであり、10%以下であれば一般的に安全とされている。ヒトでのデータが乏しい場合、動物実験のデータを参考にすることもあるが、動物実験に基づくデータのヒトへの外挿には注意が必要である。血漿中蛋白結合率の低い薬剤や脂溶性の高い薬剤は、細胞膜を通過しやすく乳汁中に移行しやすいという特性がある。しかし、ヒトと動物では乳汁中の蛋白濃度や脂質含量が異なっており、寄与するトランスポーター分子種も異なるため、動物実験データからヒトへの薬剤移行性を正確に予測することは難しい。

薬剤師には、薬剤の科学的評価に加え、授乳中の母親に対する情報提供と心理的サポートを行うカウンセリング技術が求められる。抗菌薬や鎮痛薬の使用に不安を抱える母親に対し、薬剤師が根拠をもとに説明を行うことで、安心して授乳を継続できるケースも多い。患者の不安を軽減し、母乳育児と治療の両立を支援することは薬剤師の重要な役割である。今後は医療従事者間の連携を強化し、より実践的な支援体制の構築が求められる。

本シンポジウムが授乳期における薬物療法の安全性評価と臨床判断に資する知見を共有する場となり、日々の診療の一助になればと考える。

略歴



帝京大学医学部附属病院薬剤部 薬剤師

仲村 聡美 (なかむら さとみ)

【学歴】

2013 年 星薬科大学薬学部 卒業

【職歴】

2013 年 帝京大学医学部附属病院薬剤部 入職

2020 年 帝京大学医学部附属病院産科病棟専任薬剤師

2024 年 帝京大学医学部附属病院「妊娠と薬外来」担当薬剤師兼任

【所属学会】

日本病院薬剤師会

日本医療薬学会

日本先天異常学会

【専門資格等】

日本病院薬剤師会

妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師・病院薬学認定薬剤師

【ランチョンセミナー】女性がん患者に対する免疫チェックポイント阻害剤

乳癌における免疫チェックポイント阻害剤の役割

帝京大学医学部外科

松本 暁子

近年、乳癌の罹患数は増加の一途をたどっており、2020年には約9万人の女性が新たに乳癌と診断され、日本人女性におけるがん罹患率で第1位を占めている。乳癌のサブタイプの中でも、トリプルネガティブ乳癌（TNBC）はHER2陽性やホルモン受容体（HR）陽性乳癌と比較して予後不良である。従来、TNBCに対する薬物療法の中心は殺細胞性化学療法であったが、近年では免疫チェックポイント阻害薬（ICI：immune-checkpoint inhibitor）が新たな治療選択肢として登場し、周術期および進行・再発TNBCに対して保険適用となっている。周術期治療においては、抗PD-1抗体であるペムブロリズマブを用いたKeynote522試験により、HR陰性かつHER2陰性で再発高リスクの乳癌に対して、術前・術後補助療法としての有効性が示されている。また、進行・再発乳癌に対しては、ペムブロリズマブを用いたKeynote-355試験、および抗PD-L1抗体であるアテゾリズマブを用いたImpassion130試験により、いずれもPD-L1陽性のHR陰性かつHER2陰性の手術不能または再発乳癌において、それぞれ治療選択肢としての有用性が確認されている。

このように、ICIはTNBCに対して、周術期から進行・再発期に至るまで幅広く導入が進んでおり、実臨床においてはその有効性と安全性を踏まえた適切な使用が求められる。

本講演では、これらの主要臨床試験における有効性および安全性に関するエビデンスを概説し、ICIに特有の免疫関連有害事象（irAE）への対応についても述べる。

略歴



帝京大学医学部外科 講師

松本 暁子（まつもと あきこ）

【学歴】

2001 年 3 月 慶應義塾湘南藤沢高等部卒業

2007 年 3 月 慶應義塾大学医学部卒業

【職歴】

2007 年 4 月-2009 年 3 月 東京歯科大学市川総合病院 初期臨床研修医

2009 年 4 月-2010 年 3 月 SUBARU 健康保険組合太田記念病院(旧総合太田病院)外科専修医

2010 年 4 月-2011 年 3 月 大和市立病院 外科専修医

2011 年 4 月-2014 年 3 月 慶應義塾大学医学部一般・消化器外科 助教

2014 年 4 月-2016 年 3 月 稲城市立病院外科 医員

2016 年 4 月-2019 年 3 月 帝京大学医学部外科 助手

2019 年 4 月-2024 年 3 月 帝京大学医学部外科 助教

2024 年 4 月-現在 帝京大学医学部外科 講師

【所属学会】

日本外科学会、日本乳癌学会、日本癌治療学会、

日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会、日本臨床腫瘍学会、

日本外科感染症学会

【専門資格等】

日本外科学会専門医・指導医、日本乳癌学会乳腺専門医・指導医、

日本がん治療認定医機構がん治療認定医、検診マンモグラフィ読影認定医、

乳がん検診超音波検査実施・判定医師、医学博士（慶應義塾大学）

【ランチョンセミナー】女性がん患者に対する免疫チェックポイント阻害剤

婦人科がんにおける免疫チェックポイント阻害剤の役割

帝京大学医学部附属病院産婦人科

西田 晴香

婦人科がんの罹患数は、子宮体癌、卵巣癌、子宮頸癌すべての癌腫で年々増加傾向であり、発症年齢は20歳代から50歳代と若年に多い悪性腫瘍である。AYA世代や育児世代に多く、がん治療中の生活の質が問題となる一方、特に子宮体癌や子宮頸癌の再発進行がんでは選択できる治療法や治療薬剤が限られており、治療に難航することが多い。近年、婦人科がん領域でも免疫チェックポイント阻害剤が保険収載され始め、再発進行婦人科がんに対しての治療選択肢が拡がりつつある。局所進行症例に対するKEYNOTE-A18試験や、進行又は再発症例に対するKEYNOTE-826試験では、放射線治療や従来の殺細胞性抗がん剤と免疫チェックポイント阻害剤を組み合わせることで、またEMPOWER-Cervical 1試験では免疫チェックポイント阻害剤を単独で投与することで、従来の治療と比較して生存期間の延長が認められ、治療効果が期待されている。しかし、免疫チェックポイント阻害剤の副作用や有害事象は、作用機序の違いから、従来の殺細胞性抗がん剤の副作用と全く異なり、治療中の管理が難しい点も大きな特徴である。免疫チェックポイント阻害剤を使用した治療を安全に継続するためには、産婦人科のみでなく、代謝内科、糖尿病内科、呼吸器内科など多岐に渡る専門知識が必要であり、副作用を早期発見するには患者さん自身の協力も必要である。

本講演では、当科での免疫チェックポイント阻害剤の使用経験や有害事象管理を通して、免疫チェックポイント阻害剤をより長く、有効に使用できる工夫などを解説する。

略歴



帝京大学医学部附属病院産婦人科 講師

西田 晴香 (にしだ はるか)

【学歴】

2008 年 熊本大学医学部医学科卒業
2016 年 東京大学大学院医学研究科博士課程修了

【職歴】

2010 年 国立国際医療研究センター病院 初期研修修了
2010 年 東京大学医学部 産婦人科学教室
2011 年 関東労災病院産婦人科 医員
2018 年 東京大学医学部附属病院 女性外科 助教
2020 年 帝京大学医学部産婦人科 助教
2021 年 12 月 帝京大学医学部附属病院産婦人科 講師
現在に至る

【所属学会】

日本産婦人科学会、日本婦人科腫瘍学会、日本産科婦人科内視鏡学会、日本癌学会、
日本癌治療学会、日本産科婦人科遺伝診療学会、日本内視鏡外科学会

【専門資格等】

日本産婦人科学会産婦人科専門医・指導医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医
日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医
日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医
日本内視鏡外科学会 技術認定医
ロボット (da Vinci) 手術認定医
遺伝性腫瘍専門医、臨床研修指導医

【スポンサードセミナー】HBOC に対するリスク低減手術と再建術

リスク低減卵管卵巣摘出術：手術手技の工夫と術後の包括的ケア

帝京大学医学部産婦人科学講座
帝京大学医学部附属病院臨床遺伝診療センター

長阪 一憲

遺伝性乳がん卵巣がん症候群（HBOC）は、*BRCA1/2* 遺伝子の病的バリエーションにより乳がんおよび卵巣がんの発症リスクが著しく高まる遺伝性腫瘍症候群である。*BRCA1* 病的バリエーション保持者が 80 歳までに乳がんおよび卵巣がんを発症する累積リスクはそれぞれ約 72% と 44% であり、*BRCA2* 病的バリエーション保持者ではそれぞれ約 69% と 17% と報告されている。

BRCA 病的バリエーションを有する女性に対してはリスク低減卵管卵巣摘出術（RRSO）が最も確立された予防的介入法であり、卵巣がんリスクのみならず全死亡率も有意に低下させることがエビデンスとして示され、国内外のガイドラインにて推奨されている。一方、血清 CA125 測定や経膈超音波を利用した卵巣がんスクリーニングは、早期発見による予後改善効果が実証されていないため、現在のところ RRSO に匹敵する予防的介入は存在しない。

日本においても、2020 年度以降にがんゲノム医療体制が本格化し、*BRCA* 遺伝学的検査が保険適用となったことで、HBOC 診療が普及しつつある。しかしながら、全国規模で統一された検診・サーベイランス体制は未だ十分に整備されておらず、地域差や施設間格差が課題として指摘されている。RRSO 施行時期に関しても、*BRCA1* 病的バリエーション保持者では 35～40 歳または出産終了後が推奨されるが、*BRCA2* 病的バリエーション保持者では卵巣がん発症が遅いことから 40～45 歳とガイドラインに明記されているが、実際の運用においては個別の状況に応じた主治医の判断が不可欠である。

さらに、RRSO 施行後には早発閉経に伴う更年期障害、骨粗鬆症、心血管疾患、性機能障害など、女性の生涯にわたる健康管理が重要な課題となる。特にホルモン補充療法（HRT）の安全性や乳がんリスクへの影響については、より詳細なエビデンスの蓄積が求められている。また、乳房切除術を受ける患者に対しては、再建術を含めた美容的側面への配慮や心理的サポートの充実が欠かせない。

本セミナーでは、RRSO に関する最新エビデンスを整理するとともに、安全かつ効果的な手術手技の工夫について解説する。さらに、術後の包括的ケアの重要性を示し、多職種連携による患者支援体制の構築を含め、女性のライフステージに応じた適切なケアについて、実践的な視点から解説したい。

略歴



帝京大学医学部産婦人科学講座 主任教授

長阪 一憲（ながさか かずのり）

【学歴】

2000 年 愛媛大学医学部医学科 卒業

2008 年 東京大学大学院医学系研究科 修了（医学博士）

【職歴】

三井記念病院、小平記念東京日立病院、東京警察病院などで研修

2008 年 国際遺伝子工学バイオテクノロジーセンター（ICGEB）招聘研究員

2010 年 関東労災病院産婦人科 医長

2012 年 東京大学医学部附属病院女性診療科産科 医局長

2017 年 帝京大学医学部産婦人科学講座 講師

2020 年 同 准教授

2021 年 帝京大学医学部産婦人科学講座 主任教授

2025 年 帝京大学医学部附属病院臨床遺伝診療センター センター長

【所属学会】

日本産科婦人科学会、日本婦人科腫瘍学会、日本周産期・新生児医学会、

日本女性医学学会、日本生殖医学会、日本産婦人科内視鏡学会

日本内視鏡外科学会、日本人類遺伝学会、日本遺伝性腫瘍学会、

日本臨床細胞学会、日本癌治療学会、日本癌学会

日本婦人科がん検診学会、日本産婦人科遺伝診療学会

日本エンドメトリオーシス学会、日本ロボット外科学会

日本がん生殖医療学会、日本産婦人科乳腺医学会

日本がんサポーターズケア学会（JASCC）

国際がんサポーターズケア学会（MASCC）

【専門資格等】

日本産科婦人科学会（専門医・指導医）、日本婦人科腫瘍学会（専門医・指導医）

日本臨床細胞学会（専門医・教育研修指導医）、日本人類遺伝学会（臨床遺伝専門医）

日本遺伝性腫瘍学会（専門医・指導医）、

日本産婦人科内視鏡学会（腹腔鏡技術認定医、子宮鏡技術認定医）

日本がん検診・診断学会 評議員、日本婦人科がん検診学会 評議員 ほか

【スポンサードセミナー】HBOC に対するリスク低減手術と再建術

遺伝性乳癌卵巣癌症候群（HBOC）患者に対する乳房再建について

帝京大学医学部形成・口腔顎顔面外科学講座

堂後 京子

大河内 真之、小室 裕造

【目的】2020 年 4 月に遺伝性乳癌卵巣癌症候群（HBOC）診療に関する保険適用が拡大された。同時に乳房再建についても適応が広がり、対応が求められている。当院における HBOC 患者に対する診療体制および乳房再建の現状を検討し、報告する。

【方法】2019 年 1 月から 2024 年 12 月の 5 年間に、当院で BRCA 遺伝子陽性と診断され、乳房再建を施行した患者を対象とし、再建方法について調査した。

【結果】BRCA 遺伝子陽性患者は 43 例（BRCA1 陽性 14 例、BRCA2 陽性 29 例）であった。乳癌 37 例および卵巣癌 8 例（重複例あり）に対し、卵巣癌患者の両側リスク低減乳房切除術（BRRM）2 例、片側乳癌患者の対側リスク低減乳房切除術（CRRM）16 例、リスク低減卵巣卵管摘出術（RRSO）14 例が施行された。乳房再建は 14 例（33%）に実施され、両側再建 9 例、片側再建 5 例で、全例が乳房切除と同時に終わる一次再建であった。再建方法は、組織拡張器（TE）挿入による一次二期再建が 10 例（71%）で、最終的な再建方法は、シリコンインプラント（SBI）が 7 例（50%）（うち脂肪注入併用のハイブリッド再建が 2 例）、自家組織（皮弁、脂肪注入）が 7 例（50%）（再建途中が 1 例）であった。

【考察】HBOC 診療の保険適応拡大に伴い、当院では認定遺伝カウンセラーと乳腺外科、婦人科、形成外科、腫瘍内科などの関連診療科との多職種連携による診療体制を構築して取り組んでいる。対象患者には、保険診療での遺伝学的検査、RRM、RRSO およびサーベイランス（MRI・超音波検査等のフォローアップ検査）を実施している。HBOC 診療ガイドライン 2021 では、RRM において乳房再建を前提とした乳頭温存皮下乳腺全摘術（NSM）の検討を、乳房再建では一次再建を推奨している。しかし、左右の治療時期や治療法が異なる場合や、片側への放射線照射の可能性も考慮する必要があり、再建計画は一様ではなく個別化が必要である。また、TE 挿入中は MRI 検査が行えない場合があり、サーベイランスへの影響も留意する必要がある。今後は、遺伝性腫瘍についての十分な理解のもと、多くの患者が適切な治療を受けられるよう、関連診療科との密な連携と、患者との Shared Decision Making（SDM）による意思決定支援をより重視した診療体制が求められると考えられた。

略歴



帝京大学医学部形成・口腔顎顔面外科学講座 准教授

堂後 京子（どうご きょうこ）

【学歴】

- 1996 年 筑波大学医学専門学群卒業
- 2005 年 東京大学大学院医学系研究科博士課程修了

【職歴】

- 1996 年 筑波大学附属病院 外科レジデント
- 1998 年 静岡県立総合病院 形成外科
- 1999 年 東京大学医学部附属病院 形成外科
- 2000 年 総合病院国保旭中央病院 形成外科
- 2006 年 堀ノ内病院 形成外科 部長
- 2010 年 筑波メディカルセンター病院 乳腺科 医長
- 2013 年 獨協医科大学越谷病院 形成外科 講師
- 2016 年 帝京大学医学部 形成・口腔顎顔面外科 臨床助手
- 2018 年 同 講師
- 2020 年 同 病院准教授
- 2025 年 同 准教授

【所属学会】

日本形成外科学会、日本マイクロサージャリー学会、日本褥瘡学会、
日本創傷外科学会、日本乳癌学会、日本形成外科手術手技学会、
日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会、日本頭蓋顎顔面外科学会、
日本再生医療学会、日本内視鏡外科学会、日本美容外科学会（JSAPS）

【専門資格等】

日本形成外科学会専門医・指導医
日本形成外科学会 皮膚腫瘍外科分野指導医
日本形成外科学会 再建・マイクロサージャリー分野指導医
日本乳癌学会乳腺認定医
日本創傷外科学会専門医
再生医療認定医
日本スポーツ協会公認スポーツドクター

【スポンサードセミナー】 HBOC に対するリスク低減手術と再建術

HBOC 診療における医師と遺伝カウンセラーの協働：

リスク低減手術の意思決定支援を中心に

お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科
ライフサイエンス専攻遺伝カウンセリングコース/領域

佐々木 元子

遺伝性乳癌卵巣癌（HBOC）は、乳腺外科・産婦人科領域において日常診療で遭遇する頻度が高くなりつつあり、診断・治療・サーベイランス・リスク低減手術の選択肢が広がる中で、患者の意思決定を多面的に支援する体制が求められている。近年、遺伝学的検査の迅速化、保険適用の拡大、リスク低減手術および乳房再建術の選択が進む一方で、検査結果の告知や意思決定の場面で医療者が対応に難渋するケースも増加している。

本講演では、リスク低減乳房切除および卵管卵巣切除を検討した一例を通じて、検査前カウンセリング、検査結果の告知、意思決定支援、家族の支援まで、遺伝カウンセラーが医師と連携しながら診療をサポートした具体的なプロセスを紹介する。

遺伝カウンセラーは、医療者が安心して遺伝医療を実践できるよう、家族歴の整理、情報の補完、心理社会的背景の確認など、診療を支える役割を担っている。医師と遺伝カウンセラーが協働することで、遺伝学的検査とその後の治療選択がより円滑に進み、患者にとって納得感のある診療が提供しやすくなる。遺伝医療の基礎知識を整理するとともに、実臨床で医師が遺伝カウンセラーとスムーズに連携するためのポイントを、具体的な場面ごとに考察したい。

略歴



お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科
ライフサイエンス専攻遺伝カウンセリングコース/領域 講師

佐々木 元子（ささき もとこ）

【学歴】

- 1993 年 日本女子大学化学科 卒業
- 1998 年 横浜市立大学大学院 満期退学 博士（理学）
- 2004 年 お茶の水女子大学大学院遺伝カウンセリングコース 入学
- 2010 年 お茶の水女子大学大学院遺伝カウンセリング領域 満期退学

【職歴】

- 1998 年 （財）神奈川科学技術アカデミー 研究員
横浜市立大学医学部 客員研究員
- 2001 年 明治製菓（株） 研究員
- 2008 年 田園調布学園中学校・高等学校 非常勤講師（理科）
- 2012 年 日本医科大学付属病院 認定遺伝カウンセラー
- 2016 年 横浜市立大学附属病院 認定遺伝カウンセラー
- 2018 年 お茶の水女子大学大学院遺伝カウンセリングコース 助教
- 2023 年 お茶の水女子大学大学院遺伝カウンセリングコース 講師

【所属学会】

日本医学教育学会、日本遺伝子診療学会、日本遺伝カウンセリング学会、
日本産科婦人科遺伝診療学会、日本人類遺伝学会、日本生物教育学会、
日本ダウン症学会、ヘルスコミュニケーション学関連学会機構

【専門資格等】

認定遺伝カウンセラー・指導者、ジェネティックエキスパート、
中学校・高等学校教諭専修免許状（理科）

関連学会・研究会予定

第23回日本乳癌学会九州地方会

会期：2025年9月6日（土）・7日（日）

会場：久留米シティプラザ

当番世話人：山口 美樹（JCHO 久留米総合病院乳腺外科 部長）
岩熊 伸高（NH0 九州医療センター乳腺外科 科長）

第53回日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会

会期：2025年9月13日（土）・14日（日）

会場：御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター

会長：久保田 一徳（獨協医科大学埼玉医療センター放射線科 主任教授）

第33回日本がん検診・診断学会総会

会期：2025年9月18日（木）・19日（金）

会場：京都産業会館ホール

会長：浮村 理（京都府立医科大学大学院医学研究科泌尿器外科学 教授）

第22回日本乳癌学会中部地方会

会期：2025年9月20日（土）・21日（日）

会場：名古屋コンベンションホール

当番世話人：喜島 祐子（藤田医科大学医学部乳腺外科学講座 教授）

第22回日本乳癌学会中国四国地方会

会期：2025年9月26日（金）・27日（土）

会場：あわぎんホール（徳島県郷土文化会館）

当番世話人：井上 寛章（徳島大学大学院医歯薬学研究部胸部・内分泌・腫瘍外科 講師）
加藤 剛志（高松市立みんなの病院産婦人科 院長補佐）

第34回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会

会期：2025年10月4日（土）・5日（日）

会場：御茶ノ水ソラシティ

会長：川名 敬（日本大学医学部産婦人科学系産婦人科学分野 主任教授）

第14回北海道産婦人科乳腺医学会

会期：2025年10月25日（土）

会場：オンライン開催

会長：高後 裕匡（札幌マタニティ・ウイメンズホスピタル 理事長）

第 35 回日本乳癌検診学会学術総会

会期：2025 年 11 月 28 日（金）・29 日（土）

会場：高知県立県民文化ホール、三翠園、ザクラウンパレス新阪急高知

会長：杉本 健樹（社会医療法人近森会近森病院乳腺センター センター長）

第 23 回日本乳癌学会近畿地方会

会期：2025 年 12 月 6 日（土）

会場：神戸国際会議場

当番世話人：山神 和彦（神鋼記念病院 副院長兼乳腺センター長）

第 21 回日本乳癌学会関東地方会

会期：2025 年 12 月 6 日（土）

会場：大宮ソニックシティ

当番世話人：大崎 昭彦（埼玉医科大学国際医療センター乳腺腫瘍科 教授）

堀井 理絵（横浜市立大学附属市民総合医療センター病理診断科 准教授）

第 35 回日本乳癌画像研究会

会期：2026 年 2 月 14 日（土）・15 日（日）

会場：アクリエひめじ

当番世話人：白岩 美咲（独立行政法人国立病院機構姫路医療センター放射線診断科 医長）

第 32 回日本産婦人科乳腺医学会

会期：2026 年 2 月 22 日（日）

会場：アートホテル宮崎スカイタワー

会長：松 敬文（まつ婦人科クリニック 理事長）

第 32 回日本乳腺疾患研究会

会期：2026 年 2 月 27 日（金）・28 日（土）

会場：久留米シティプラザ

会長：唐 宇飛（久留米大学外科学講座乳腺・内分泌外科 教授）

第 23 回日本乳癌学会北海道地方会

会期：2026 年 3 月 7 日（土）

会場：北海道大学学術交流会館

当番世話人：中島 香織（旭川医科大学放射線医学講座 講師（病院教授））

日本超音波医学会第 99 回学術集会

会期：2026 年 5 月 29 日（金）～31 日（日）

会場：東京国際フォーラム

会長：古川 まどか（愛知医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科、
昭和医科大学横浜市北部病院甲状腺センター）

協賛企業・団体 一覧

あすか製薬株式会社
アストラゼネカ株式会社
エーザイ株式会社
MSD 株式会社
株式会社 LA Solutions
コニカミノルタジャパン株式会社
GE ヘルスケア・ジャパン株式会社
医療法人慈桜会瀬戸病院
ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社
ゼリア新薬工業株式会社
武田薬品工業株式会社
中外製薬株式会社
株式会社ツムラ
一般社団法人日本無痛分娩研究機構
株式会社文進堂書店
持田製薬株式会社
森永乳業株式会社
雪印ビーンスターク株式会社

五十音順 2025 年 8 月 20 日現在

謝 辞

第 16 回 関東産婦人科乳腺医学会の開催に際しまして、上記の企業・団体から多大なるご助成、ご協賛をいただきました。ここに感謝の意を表します。

第 16 回 関東産婦人科乳腺医学会
会長 長阪 一憲